



## 牛って大きいなあ

大淵第1小学校3年 かとうあけみ

わたしは、牛を見ておどろいた。どっしりとしたからだ、でこぼことしたせなか、おっばいが、だらりとさがっている。歩いているのを見ていると、だらりとさがっているおっばいが、おもたそう。だから、のんきそうに、ゆっくりと歩いているのかな。おなかも大きい。わたしは、牛って、よく食べてよくねるから、どこそここんなに大きいのかなあ、と思った。

からだの色は、ちょっときたない色、クリ

ーム色、白とクリーム色が、まじったような色、いろいろの色をした牛がいた。けれども足の方は、どの牛もちよっときたなかった。

なき声を聞いた。大きな声で、「モー。」とないた。中には、かなしそうな声で、「モー。」とないた牛もいた。わたしは、あの牛かなしいのかなあと思った。おこったような声でないた牛もいた。あの牛は、どうしておこっているのかな。

フーフーいいながら、よだれを、ぼたぼただしながら、じっとなにかを見ている牛。ふんや、おしっこをしっている牛。しっぽを、ぶらぶらさせている牛。まだ、いろいろなことをしている牛を、見ているうちに、牛は、あんなことばかりしていて、たいくつじゃあないのかなあ。と思った。